第二圖
肉腫
摘出
後

中空鑄造架工齒ノ一調製法 (四圖入)

九州齒科醫學專門學校附屬醫院(院長 沖野教授)

補綴部

松本 洋一

Aus der Prothetischen Abteilung der Zahnärztlichen Hochschule
zu Fukuoka. (Leiter: Prof. Setsuso Okino.)

Eine Herstellungsmethode der gegossenen Zwischen-Hohlkrone.

Von

Dr. Yoichi Matsumoto.

Mit 4 Textabbildungen.

中空架工齒ノ調製法ニハ種々ナル方法アリ。又鑄造法ニ依ル方法モ色々ノ術式ヲ見ル
概シテ述ブレバ鑄造法ハ鑲着法ニ比シテ其ノ操作ニ於テ複雑ナル點ヲ多ク見ル。

此處ニ述ブル鑄造法ニ依ル調製法ハ鑲着法ニ比シテ簡單ナリト信ズ。

假リニ上顎第一大臼齒ノ缺損セル部ニ工齒ヲ調製セントス。

先ヅ支臺齒トナル金冠ノ調製ハ通常ノ方法ニ依リ、即チ鑄造法、鑲着法何レニ依ルモ可
ナリ。金冠ノ調製終ラバ印像採得石膏模型ノ調製ハ通常ノ如クナス。

模型調製終ラバ缺損部ニ於ケル間隙ヨリモ稍々小ナル即チ 30 番乃至 31 番丈ケ小ナル和
製有孔陶齒ヲ求メ概略對合關係ヲ適合スル様削合ス。

第一圖

第二圖

第三圖

以上第一圖ノ如シ。

而ル後 = 30 番—31 番ノシートワックスヲ以テ該陶齒ヲ蔽ヒ壓接ス。而シテ咬合面 = 「インレーワックス」ヲ附加シテコレヲ間隙ニ再ビ適合セシメテ對合齒ト咬合セシム。是ニ依リテ咬合關係ヲ得ルモノナリ。更ニコレヲ模型ヨリ取り外シテ咬合面ノ修正ヲナス。修正終レバ陶齒ヲコノ蠟型ヨリ取り去リ咬頭部ヨリ第二圖ニ示スガ如クニ鑄入線ヲ附スルナリ。

鑄入線ハ蠟型ノ完成後附スルモ可ナリ。

而シテ邊緣ニ於ケル蠟ノアマレル部分ヲ除去シコレニ埋沒劑ヲ注入ス。埋沒劑ノ硬化セザル中ニ第三圖ニ示スガ如クニ金板ノ端切レ若シクハ金線、鉛筆ノ芯ヲ挿入ス。

コノ埋沒劑ノ固定裝置ハ蠟原型完成後附スルトキハ A ナル埋沒劑ノ固定不充分トナル恐アル故ニコノ時ニ施スヲ可トス。埋沒劑完全ニ硬化スレバ基底部ノ形成ヲナス。形成終了セバ 30—31 番ノ「シートワックス」ヲ以テ基底部ヲ蔽ヒテ蠟型ヲ癒着

シテ蠟原型ヲ完成ス。

以下埋沒法及ビ鑄造法ハ通常法ニ同ジ。

而シテコノ鑄造ハ通常ノ「インレー」及ビ鑄造金冠ノ鑄造ニ比シテ稍々困難ナリ。

特ニタツカード氏埋沒劑ノ如キ緻密ナルモノヲ用フルトキハ著シク困難ヲ覺ユ。

斯クノ如キ時ハ豫メ埋沒前ニ於テ蠟原型ニ毛髮若シクハ馬ノ尾毛ノ如キモノヲ適當ノ所ニ附加ス。而ル時ハ鑄造ノ際ニ於テ瓦斯ノ排出孔トナリテ鑄造ヲ容易ナラシム。

又コノ架工齒ノ中ナル埋沒材ヲ除去セント欲スレバ豫メ第三圖ニ於ケル固定裝置ヲ施ス時ニ金ヲ用ヒズシテ鉛筆ノ芯ヲ用ヒ、鑄造後ニ於テコノ鉛筆ノ芯ヲ Bur ノ如キモノニテ除去シ、コノ孔ヨリ埋沒材ヲ抽出シコノ孔ニ純金板ヲハリテ蠟著スレバ完了スルモノナリ

第四圖